

1930年9月30日迄、優先普通株は1923—24年度迄又普通株は1920—21年(5分)迄で其以後は引續き無配當である。

サウス・ダーラムは1898年の設立で、其後 Seaton Carew Iron Company を買収し鋼板、鋼管、タンク等主として船舶建造材料の製造に従事して居る、同社は又 Cargo Fleet Iron Company を統制管理して居るが、此カーゴ・フリート・アイアン社はセクション、ジョイスト、レール其他の鋼を製造して居る、此兩社は共同して多數の炭坑及鑛坑を領有して居る、収益は近年減少したが、夫でも相當率を維持して居り、普通株に對しても年々配當を繼續して居る、1931—32年の配當は3分である。

ドルマン・ロングがロード・フアネツス系のサウス・ダーラムとの合同に關し、交渉を始めたのは曩に述べた通り數年前のことであるが、合同條件に於て相互の意志合致を見ず往々今日に至つたのであるが、最近英國鐵鋼業委員會設立せられ、斯業改造の實現に關する

計畫遂行の必要益と急務となれる事情に鑑み、急轉直下的に今回の合同實現せらるゝに至つたものと認められるのである、本來ドルマン・ロングは英國最大の鐵鋼會社であつて、其1箇年の生産能力は塊鋼250萬噸、仕上鋼175萬噸、銑鐵215萬噸、石炭350萬噸及鐵鑛325萬噸である。歐大陸諸國斯業發展の情勢に適應するが爲には、其機械設備の改造刷新特に銑鐵熔鑛爐の改造は最急とする處であるが、同社は戦後其財政狀態著數不良に傾き、1931—32年の決算に於ては銀行借入金の額約280萬磅に達して居る。之に反しサウス・ダーラムの經營方針は常に控目的であるから、其財政的基礎は非常に鞏固であつて、現時の經濟大不況に面しても尙且之に耐へ得る丈の財力を備へて居るのであるから、合同實現の曉には此兩社の特長は相俟て英國斯業の刷新發展に有力なる効果を齎すべきである。(海外經濟事情 第6年 第20號)